

氏名	肥 山 淳一郎
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 1388 号
学位授与の日付	平成7年3月31日
学位授与の要件	医学研究科 内科系内科学（二）専攻 （学位規則第4条第1項該当）
学位論文題目 臨床的意義	肺非小細胞癌における血清neuron-specific enolase(NSE)測定の臨 床的意義
論文審査委員	教授 辻 孝夫 教授 清水 信義 教授 太田 善介

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

化学療法のprotocol studyに登録された肺非小細胞癌（NSCLC）154例を対象として、血清neuron-specific enolase(NSE)値と化学療法の効果および予後について検討を行うとともに、生検材料が回収できた46例について、NSEの免疫組織染色を行った。血清NSE値の陽性率は29%で、血清NSE値と病期には有意な相関が認められた（ $p=0.0131$ ）。血清NSE陽性例と陰性例で化学療法の奏効率に差はなかったが、奏効期間は陽性例（4.9カ月）は陰性例（6.7カ月）に比べて短く（ $p<0.05$ ）、生存期間中央値も陽性例（6.2カ月）は陰性例（13.1カ月）に比べ有意に短かった（ $p<0.001$ ）。NSE免疫組織染色では46%が陽性であったが、血清NSE値と相関は認められなかった。以上より、NSCLCにおける血清NSE高値は、腫瘍が神経内分泌の性格を表すのではなく、腫瘍量が多く、しかも増殖が速やかでcell deathも多いという増殖特性を反映

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、血清neuron-specific enolase(NSE)測定の臨床的意義を明らかにすることを目的に、肺非小細胞癌患者の生検材料を用いて免疫染色と臨床像を研究したものであり、NSE陽性と陰性例の間には、化学療法の奏効率には差がなかったが、奏効期間と生存期間には、共に陰性例が長かったとの興味ある成績を得ており、予後判定の指標となるとの価値ある結果を明らかにしている。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認めた。